

2012年2月29日発行

【事前案内】

**学生懸賞論文**

2011年度の表彰式を下記の通り行います。  
また表彰式と併せ、論文発表会も執り行います。

日時：2012年3月8日(木)15:30～  
会場：甲南大学10号館1階1014教室

佳作受賞2本を含む6本の論文は『経済学 学生論集』に掲載致します。

**卒業記念レセプション**

甲南大学経済学会では卒業生を祝し「卒業記念レセプション」を開催しています。  
経済学部を卒業される皆様は是非ご参加ください。

日 時：2012年3月24日(土)17:30-19:30  
場 所：神戸ベイシェラトン ホテル&タワーズ(神戸市東灘区向洋町中 2-13)  
会 費：1000円  
申込締切：2012年2月20日(月)【必着】

【事後報告】

**退職記念講演会**

小島修一教授

「甲南大学での36年—研究・教育・大学をふりかえって」

【プロフィール】

小島 修一(こじま しゅういち) 甲南大学経済学部教授

専門分野：経済史

研究テーマ：ロシア経済史・経済思想史

著 書：『20世紀初頭ロシアの経済学者群像』ミネルヴァ書房 2008.10  
『ロシア農業思想史の研究』ミネルヴァ書房 1987.03

日時：2012年2月24日(金)10:30-11:30  
会場：2号館1階211教室

## 講演会感想 by 学生評議員

私は、小島先生には1回生の頃からお世話になりました。

具体的に授業名を挙げますと、1回生前期の「経済の歴史と思想」、2回生前期の「歴史と経済<sup>\*1</sup>」、3回生前期・後期の「西洋経済史Ⅰ・Ⅱ」以上4科目8単位です。

私が3年間受講した上で感じたこととしましては、専門知識を伝えるというだけではなく、卒業後に使える教養を学生に身に着けさせようと、“分かりやすく”“為になる”授業を心がけていらっしゃると思います。

64歳といいますと、私のような若輩者がこのように申し上げるのも失礼な話ですが、世間の一般論としましては、還暦を過ぎた高齢者であり、日常の所作・言動が若い頃のように行かないと考えられています。

しかし、小島先生は、お世辞・お追従抜きに、矍鑠(かくしゃく)としておられ、全く年齢を感じさせません。退職してからも研究は続けるおつもりのようで、その姿には高みに挑もうというエネルギーを感じました。

小島先生が退職されたことで、甲南大学の旧き良き時代を知る人間が一人減ってしまうのは寂しい限りです。しかし、過去を振り返ってばかりでは先に進みません。小島先生に教わったことを糧にしまして、未来に向かって一步を踏み出して行きたいと思います。

(H・O)

<sup>\*1</sup> 広域副専攻〈人類の歴史〉コース配当科目

私は、小島先生退職記念講演会で小島先生の話聞く中で、先生は常に自身の研究について新しいことをチャレンジするというのが、私自身が今後生きていく上でとても参考になったと思いました。特に未知の分野への挑戦という部分などは、何もない領域に自らが進んで研究を行うということは、自分も勉強になりました。

また先生が仰っていた「専門家とは何か？」という問いに、私はとても考えさせられました。確かにソ連の崩壊という歴史的な出来事を予測出来た人があまりいなかったという点は、専門家の存在があつてなかったような結果です。その「想定外」を予測し、推測することが出来ないのが専門家なのかと考えてしまいました。

さて、自分は小島先生の「経済の歴史と思想」という科目を受講していましたが、先生の講義はとても分かりやすく、また、今までどのようにして世界経済が成り立っていたのかという部分も今まで以上に分かるようになりました。そして経済の思想や経済学者の考え方を知りました。

私は、今後も小島先生の講義を糧にして、さらに今後の世界経済がどのように進んで行くのが良いかを勉強していこうと思いました。

(T・Y)

今回、小島修一先生の講演会をお聞きして、学生時代からはじまり甲南大学での36年間に研究を行ったロシア経済や経済思想史についての魅力や奥深さを感じることができた。

小島先生が研究を行った時代は、米ソの冷戦があつた時代であつたにもかかわらず、あまり研究が行われていなかったロシアについて学生時代から興味を持ち、研究を進めていったのには、先生の学問研究に対する熱意や探究心が感じられ、私も前期の一授業だったが小島先生の授業を受けることができ、改めて良かったと思った。私は、経済史にはあまり詳しくないが、経済史を勉強することは現在の経済を知るうえで大切でないかと思う。

甲南大学に36年間在籍されたからこそ話せる自分たちの知らない甲南大学の過去の話も聞くことができ、小島先生が思う甲南大学の魅力や甲南大学に対する思い、教育活動に対する考えが話を聞いていて伝わってきた。

今回小島先生は退職されますが今後もロシア経済、経済思想史の専門家として何らかの形で甲南大学に関わっていただければと思う。

(S・I)

小島先生の講演を拝聴して、小島先生のロシアに対しての情熱や、未開の所という、情報が少なく大変なところにあえて挑戦する気持ちの強さに深い感銘を受けました。

積極的にロシアについて研究しようとする姿勢や、お話を聞いていると、外国人の方なども広い交友関係があるようで、自分を始め多くの日本人は、結構外国の方と話すのには勇気がいると思うので、小島先生の物怖じしない姿は、お話を聞きながらも本当にかっこよく、本当にすごいなと感じました。

何より、講演で小島先生が講演で話されているときに、すごく楽しそうに話されていたのがとても印象的でした。

というよりも、実際の講演会の内容そのものがロシア研究のことが中心で、さらに小島先生がお話しされた中に出てきた方に対しても、先生がその方々への感謝や尊敬の念が伝わってきて、本当に素晴らしい方々と研究されたのだと思いました。

また、これに関しては小島先生が決めたわけではないとのことですが、3Hクラブのネーミング、あるいは先生のお話の中で「業務命令ですか」「承知しました」という家政婦のミタの時事ネタも取り入れた、ユーモアな講演で楽しむことができました。ただ、講演会では聞いている皆さんの反応は薄かったですが・・・。

さらに、小島先生の御子息様からも、お手紙や花束を渡されている姿に、研究熱心ながらも、一人の父親としても素晴らしい方だったのだと感じました。

このように楽しいお話をして頂ける小島先生が退職なさるのは大変残念ですが、これからも先生の素晴らしいご活躍を心より願っております。

(H・T)

## 編集後記

本当は第7号で2011年度の学会ニュースは終わりにするつもりだったのですが、どうしても書いておきたいことが出来たため、今回、号外という形で発行することにしました。

しかし、なにぶん、急いで作ったものですので、誤字脱字があるかもしれませんが、ご容赦願います。

(H・O)

